

東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト
東京藝術大学若手芸術家支援基金

「I LOVE YOU」プロジェクト 2022

募 集 要 項

芸術は人を愛する



申請受付期間：2022年2月1日(火)～2月28日(月)17時

助成総額(予定)：1,500万円～2,000万円

令和3年12月27日 東京藝術大学
(協力：「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点)

1 趣旨・目的

東京藝術大学は、「世界を変える創造の源泉」として、芸術が持つ無限の可能性を社会に向けて伝え、実践によって示すため、2019年度より『東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト』を展開しています(これまでに実施した企画のアーカイブ等の特設 Web サイトに掲載しています：<https://iloveyou.geidai.ac.jp/>)。

この度、『I LOVE YOU』プロジェクト 2022』を実施することとし、**「個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会の実現」をテーマとして、参加企画を広く募集します。**

2030年～2040年頃の世界のあり方を思い描き、あるべき未来像(ビジョン)にたどり着くために、最初の一步としてどんなことを目標(ターゲット)に定めれば良いのか、社会のどんな課題を解決すべきなのかを考え、その目標の達成や課題の解決に向けたアプローチとなる芸術活動を試みる若い芸術家等を支援します。

2 「I LOVE YOU」プロジェクトのコンセプト

- ・科学の進化と自然への畏怖が錯綜する現代において、人を導く指針は芸術にある。社会にとって人間性溢れる ARTS の必要性を発信していく。
- ・多様な人々で構成される社会は、芸術がなければ機能しない。芸術は人の意識の基盤として日常に根付き、社会に豊かさをもたらすものである。生活に次への視点を気づかせてくれる ARTS の魅力を発信していく。
- ・科学・医学・福祉等あらゆる分野と繋がり、新たな価値を見だし、社会を変えていくことができる ARTS の力を発信していく。
- ・身近な問題、地球環境問題などの社会的課題の解決に寄与し、状況を展開できる ARTS の姿を発信していく。

3 申請資格・対象

①在学生在が主催する企画

※非正規生を含む。休学者は休学の理由次第(自己研鑽や海外留学等の場合は可)。

※2022年3月に卒業・修了予定の場合も、「①在在生」として申請すること。

②卒業・修了生が主催する企画

※本学出身者(退学含む)で、令和4年(2022年)4月1日時点で、40歳以下の者。

③学科・研究室が主催し、在在生や卒業・修了生等が参画する企画

※助成額の5割以上を若手芸術家等(在在生、卒業・修了生、他大学等の出身者も含む)への業務委託や外注に使うことを必須とします。

4 助成金額

①・②：1件につき20万円以内 ③：1件につき100万円以内

※助成総額は1,500万円～2,000万円を予定しています。

※本助成は「東京藝術大学若手芸術家支援基金」等により行われます。

5 募集する企画(以下[1]～[3]の要件をすべて満たしていること)

- [1] 「I LOVE YOU」プロジェクトのコンセプトを踏まえた企画。
- [2] 「個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会(=誰もが孤立しない共生社会)の実現」というあるべき未来像(ビジョン)にたどり着くために、最初の一步としてどんなことを目標(ターゲット)に定めれば良いのか、社会のどんな課題/どのような人(々)が抱えているどのような困難を解決すべきなのかを考え、その目標の達成や課題の解決に向けたアプローチとなる芸術活動を試みる企画。
- [3] 各種ガイドラインに従い新型コロナウイルス感染症への対策が十分取られている企画。

※例えば、以下のような企画が想定されます(但し、この例示に縛られる必要はありません)。

- 時間や場所、身体の制約を超えて多様な人々が参加/アクセスできる芸術環境を構築することを目標として、リアルとバーチャルを横断した企画や、デジタルツイン上で展開される企画、障害の有無を問わず参加できる展示・演奏等を行う企画。
- 多様な人々のコミュニケーションを促進することを目標として、作家・演奏者と鑑賞者、または鑑賞者同士が“感動を共創”する新しい芸術体験(コンテンツ)を創出する企画や、多世代間/異文化間など、立場や背景を越えた交流を促進する企画。
- 芸術文化が人々の健康や幸福に与えている影響を明らかにすることを目標として、アートと医療・福祉等との融合について考察・検証する企画や、日常生活や習慣の中にアートを実装し、人々の意識や行動の変化を分析する企画。
- 未来の共生社会を支える人材の育成や、新しい仕組み・回路を構築することを目標として、子ども向けのワークショップを実施する企画や、異なる組織間の新たな繋がりを生む企画。

※要件[2]の参考として、本要項の p.5～6 に、「『共生社会』をつくるアートコミュニケーション共創拠点」の構想概要を掲載しています。同拠点は東京藝術大学の新しい取組で、他の大学・研究機関・民間企業・美術館・地方自治体との共同研究として、超高齢社会に向けて「芸術×テクノロジー」により「誰もが孤立しない共生社会」を目指す事業です。
(p.5～6の構想概要は、「現時点で、この拠点がビジョンにどうアプローチしようとしているか」を示したものであり、申請する企画については別のアプローチで考えても構いません)

6 企画の実施期間

・2022年4月1日～2023年3月31日

(期間内に社会への発信を伴う活動を実践し、経費の確定も含めて完了すること)

7 申請受付期間

・2022年2月1日(火)～2月28日(月)17:00【締切厳守】

・申請書類データの提出先：i-love-you@ml.geidai.ac.jp (各種問い合わせも受け付けます)

※申請は1人につき1件迄です(ひとつの企画について複数人が別々に申請するのも不可)。

8 申請に必要な書類

・企画書 兼 予算計画書(所定様式：Microsoft® Office Excel および PDF 化したデータ)

・コンセプトペーパー(A4 縦1枚、PDF データ。企画概要を分かりやすくまとめたもの。作成方法は手書きを含め自由ですが、提出の際は PDF 化してください)

※受付期間内に双方のデータ提出が済んでいる企画のみを審査対象とします。

※コンセプトペーパーには「企画のタイトル」を必ず記入してください。

9 募集する企画の分野・形態

- ・要件に合致していれば、分野は問いません。
- ・社会への発信を伴う企画であれば、形態は問いません(展覧会、演奏会、上映会、研究報告会、講演会、ワークショップ、シンポジウム、Web サイトでの公開等)。

※入場料や参加料等の収入を伴う企画は不可です。

※大学の課題や卒業・修了に係る制作・演奏・研究等を内容とする企画は対象になりません。

10 助成対象となる経費

- ・材料費、印刷費、翻訳費、旅費、業務委託費、通信運搬費、広告宣伝費、使用料／借料(会場費や機材レンタル費等)、感染症対策費、備品／消耗品費

※飲食費・交際費(手土産代など)はいかなる場合も対象となりません。

※企画申請者(代表者)本人に対して業務委託費や謝礼を支払うことはできません。

11 助成金の使用方法

- ・学生または卒業・修了生が申請者の場合、採択の約1カ月後に助成金を振込支給します。(企画の終了後に、領収書や支払明細等の証拠書類を含む報告書を提出してもらいます)
- ・教員が申請者の場合、大学事務を通じて物品等の発注や支払い処理を行います。

※採択通知前に発生している経費には助成金を充当できません。

12 審査・選考

- ・審査および選考は、以下①～④の観点により、「I LOVE YOU」プロジェクト実行委員会の下で、東京藝術大学の役員・教員および「『共生社会』をつくるアートコミュニケーション共創拠点」の関係者が行います。

- ①「I LOVE YOU」プロジェクトのコンセプトに合致しており、社会にインパクトを与えることが期待される
- ②内容や着眼点に独創性があり、各芸術分野の特性を踏まえた高度な表現や実践が期待される
- ③「個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会の実現」というビジョンへの貢献が期待される
- ④予算の積算が妥当であり、実施に必要な条件が準備できていると見込まれる

- ・審査結果として、採択企画および助成額の一覧を大学 Web サイト等で公表します。

※審査結果は 2022 年 3 月末頃に公開・通知予定です。

※申請額よりも助成額を減額して採択する場合があります。

13 応募にあたっての注意事項

- ・企画における「社会への発信を伴う活動」を行う場所等については、申請者が各自で責任をもって確保してください(申請時には未定でも構いません)。
- ・企画の代表者等には、本プロジェクト主催のイベント等への参加を依頼する場合があります。
- ・在学生が申請する場合、企画実施の「監督者・管理者」として、指導教員の許可を必ず得てください(企画書内に許可を得たことについて記入する欄があります)。
- ・企画書等の内容は本プロジェクトの広報活動に使用させていただく場合があります。

14【参考】『共生社会』をつくるアートコミュニケーション共創拠点について

■共創拠点の始動について

2021年10月、東京藝術大学をはじめとした12の大学・企業・団体の連携による、2030年以降の孤独・孤立の解決に向けた共創拠点計画が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が公募する「共創の場形成支援プログラム」育成型（共創分野）プロジェクトとして採択されました。本拠点では、芸術家のみならず、多様な分野の研究機関・民間企業・公的機関や、様々な立場の人々が参加し、対話と実践を重ねながら研究を行っていきます。

東京藝術大学では、学内の教職員・学生が「共創の場形成支援プログラム」の活動に幅広く参加できる機会を設けていく予定です。

■拠点の構想概要：芸術とテクノロジー(※1)による社会的処方(※2)の実践



日本が直面している課題の一つに、超高齢化に伴う障害と、望まない孤独・孤立がある。65歳以上の割合が30%を超える2030年以降の社会で、高齢者が社会参加しにくく、生きがいや創造性を実感できなくなることは、個人の健康のみならず、経済的観点からも社会への大きな打撃となる。

よって本拠点では、あるべき未来の社会像として、個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会の実現をビジョンに掲げ、多様な人々が結びつく現代社会にあった新しいコミュニティの形を「芸術×テクノロジー」で提案する。

個人の生きがいや尊厳に直結し、人が人として生きるための体験「文化的処方」（社会的処方を用）を開発し、社会参加の機会となる「文化施設」の利活用を促進させるテクノロジーの開発・導入を進める他、誰もが孤立・孤独にならないアートを介したコミュニケーションを持続的に運営、普及させるための社会環境（これらを包括して「共生社会 PLANET」と呼ぶ）の構築にかかる研究と実践を行う。

※1 ここでの「テクノロジー」とは、必ずしも最先端技術のみを指すわけではなく、PC・タブレット端末やアプリケーション等の一般に広く普及しているものや、日常的に使われている情報通信技術、あるいは自作の簡単な装置や身近な道具、時には人と人との相互作用を生み出すちょっとした仕掛けや工夫等、幅広い意味での「技術」を含む。

※2 社会的処方：身体的健康のみならず、精神的及び社会的に健康であることのために、薬ではなく、社会との繋がりを専門人材であるリンクワーカーが医療機関等と連携し必要とする者に処方する仕組みで、主にイギリスなどで実装されている。

■プロジェクトの実施体制(2021年12月時点)

| | |
|------------|---|
| 代表機関 | 東京藝術大学 |
| プロジェクトリーダー | 伊藤達矢 東京藝術大学社会連携センター特任准教授 |
| 参画機関 | 東海国立大学機構 横浜市立大学 慶應義塾大学 国立精神・神経医療研究センター 株式会社インビジ 大日本印刷株式会社 SOMPOホールディングス株式会社 ヤマハ株式会社 社会福祉法人台東区社会福祉協議会 独立行政法人国立美術館 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館 |

■共創の場形成支援プログラムとは

大学等が中心となって未来のあるべき社会像(拠点ビジョン)を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラム。

- 以上 -

東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト2022 公募
企画書 兼 予算計画書 (EXCELとPDFの両データを提出してください)

※この様式のほかに、コンセプトペーパー (A4縦1枚・片面、様式任意、PDF) の提出が必要です。

| | |
|---|---|
| 企画のタイトル ※コンセプトペーパーにも必ず記載してください | <p style="color: red; text-align: center;">※企画のタイトルを記入してください</p> |
| 企画の実施日/期間 | <p style="text-align: center;">西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日</p> |
| 企画の概要 (主旨・目的・内容等) 500~600字程度 | <p style="color: red;">※本企画の主旨・目的・内容等を<u>500~600字程度</u>で記入してください。</p> |
| 本企画と「I LOVE YOU」プロジェクトのコンセプトとの関連性 150~200字程度 | <p style="color: red;">※本企画のどのような点が「I LOVE YOU」プロジェクトのコンセプトと合致しているのかを<u>150~200字程度</u>で記入してください(「I LOVE YOU」プロジェクトのコンセプトについては、募集要項のp.2を参照してください)。</p> |
| 本企画と募集要項p.3に定める「5 募集する企画」の「要件[2]」との関連性 全体で700~800字程度 | <p>「個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会の実現」というビジョンをどのように捉えたのか？</p> <p style="color: red;">※「個々人の尊厳が認められ、誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って生活できる共生社会(=誰もが孤立しない共生社会)の実現」というあるべき未来像(ビジョン)をどのように解釈し、どのような未来を具体的にイメージして本企画を実施するのかを<u>200字程度</u>で記入してください。</p> <hr/> <p>本企画は、上記の「ビジョン(未来のイメージ)」を実現するための第一歩として、どんな目標を設定し、社会のどんな課題(どのような人が抱えている困難)の解決を目指すのか？</p> <p style="color: red;">※あるべき未来像(ビジョン)にたどり着くための最初の一步として、どんな目標(ターゲット)を定め、社会のどのような課題、あるいは、どのような人(々)が抱えているどのような困難を解決すべきと考えたのかを、<u>250~300字程度</u>で記入してください。</p> <p style="color: red;">※あるべき未来像(ビジョン)の全てではなく、それを構成する一部分を実現するための目標(ターゲット)や解決すべき課題を記入する形で構いません。</p> <hr/> <p>上記で設定した目標(ターゲット)の達成および課題の解決に対して、本企画で実践する芸術活動はどのように貢献するのか？</p> <p style="color: red;">※上記の目標(ターゲット)および課題を踏まえて、この企画による芸術活動はどのようなアプローチを試みるのか、それにより、目標の達成や課題の解決にどのように貢献するのかを、<u>250~300字程度</u>で記入してください。</p> |

以下、2ページ目（この行がページの先頭になるようにしてください）

実施計画・方法
(日程・場所等)

※本企画の実施内容について、準備期間も含めたスケジュール・実施場所等を記入してください。

感染症対策

※上記実施計画において、オフラインによる展覧会や演奏会等を開催する場合、感染症対策としてどのような措置を講じるかを記入してください。

申請代表者

| 氏名 | 所属 | 学年／役職 |
|---|----------|---------|
| ●● ●● | ●●学部●●専攻 | 学部●年／●● |
| ※卒業生・修了生は、以下に卒業・修了年度および当時の所属・指導教員を記入 | | |
| ●●●●年●月卒業・修了、●●学部●●科、指導教員●●●●先生 | | |
| 主な学修歴（資格・留学等）・活動実績（展示・公演・研究・受賞等） | | |
| <p>※本企画の準備・実施にあたって参考となる（本企画に活かすことができる）これまでの学修歴や経験、過去の活動実績等について記入してください。</p> | | |

【学科・研究室が主催する企画の場合は記入必須】

主催組織（学科・専攻名／研究室名）

※「③」の区分で申請する場合は必ず記入してください。学科・専攻単位の主催なのか研究室単位の主催なのかが分かるように記入してください。

【学生が申請者の場合は記入必須】
監督教員
(非常勤講師や教育研究助手は監督教員にはなれません)

| 氏名 | 所属 | 役職 |
|---|----------|-----|
| ●● ●● | ●●学部●●学科 | ●●● |
| ※上欄の記入は、本企画における申請学生および協力者による企画の準備・実施・報告等が、上記教員による監督のもとで行われることを約束するものです（申請書提出前に、必ず上記教員による申請内容のチェックと、申請許可を得てください）。申請書受領後、事務局において、上記教員に事実確認を行う場合があります。 | | |

実施協力者
(主要な協力者のみ記入し、その他の参画者については総括して記入してください)

| 氏名 | 所属・学年／役職 | 本企画における役割 |
|----------|---------------|-----------|
| ●● ●● | ●●学部●●学科・学部●年 | ●●● |
| ●● ●● | ●●大学●●学部・学部●年 | ●●● |
| | | |
| | | |
| ●●●地域の方々 | ●●名程度 | 現地協力者 |
| ●●●団体の方々 | ●●名程度 | インタビュー対象者 |
| | | |

以下、3ページ目（この行がページの先頭になるようにしてください）

企画全体の予算計画

※飲食費・交際費はいかなる場合も計上できません。 企画申請者(代表者)本人に対する委託費・謝金等の支出は不可です。

| 区分 | 摘要 | 数量 | 単価(円) | 金額(円) |
|---|--|----|-------|---------|
| 消耗品 | (記入例) | | | |
| | 〇〇材料費 | 0 | 0 | 0 |
| | 〇〇展示用品 | 0 | 0 | 0 |
| | 展示会場用の消毒液 | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| 謝金 | 〇〇撮影・録音謝金 | 0 | 0 | 0 |
| | 〇〇のデザイン作成謝金 | 0 | 0 | 0 |
| | 〇〇の動画編集謝金 | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| 旅費 | 調査のための交通費(〇〇~〇〇往復) | 0 | 0 | 0 |
| | 調査のための宿泊費(〇〇市内) | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| 印刷製本費 | 〇〇〇印刷費 | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| 借料損料 | 〇〇ホール借料 | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 〇〇学会参加費 | 0 | 0 | 0 |
| | 〇〇翻訳外注費 | 0 | 0 | 0 |
| | 〇〇運搬費 | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | | | 0 |
| 本公募における助成金申請額 (在学生や卒業・修了生の主催企画：20万円以内 学科・研究室の主催企画：100万円以内) | | | | 200,000 |
| 共催・協賛・後援等 外部団体等の助成金 への申請状況等 | ※外部団体等と連携した企画や、他団体から助成金等を受ける予定がある場合は、その状況について記入してください。 | | | |

以下、4ページ目（この行がページの先頭になるようにしてください）

| | | |
|----------------------------------|---------|--|
| 申請代表者の連絡先 | メールアドレス | |
| | 電話番号 | |
| 事務担当者の連絡先 (助手の方など) | メールアドレス | |
| | 電話番号 | |
| 監督教員の連絡先 ※申請者が在学生の場 合、記入必須 | メールアドレス | |
| | 電話番号 | |